

- 問1 戦国時代の堺において、自治的な運営を支えた商人の経済力や、当時の文化的な背景を説明した文として最も適切なものはどれですか。 (2023年 滋賀県公立入試 類似)
- 勘合貿易の独占によって得た利益を背景に、幕府の役人が直接町を支配した。
 - 会合衆と呼ばれる商人たちが町を治め、鉄砲の製造技術を取り入れることで軍事的・経済的地位を高めた。
 - キリスト教の布教を認める代わりに、南蛮貿易を独占してヨーロッパの文化のみを追求した。
 - 朝廷からの特権を得た公家たちが、伝統的な和歌や蹴鞠の文化を町衆に広めた。
- 問2 室町時代の中期、浄土真宗（一向宗）を信仰する地侍や農民たちが強く団結し、加賀国（現在の石川県）の守護大名である富樫氏を倒す出来事が起こりました。この蜂起によって実現した、その後約100年にわたる地域の状況を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2026年 高知県公立入試 類似)
- 武家諸法度を無視したとして幕府から改易を命じられ、キリシタンを中心とした大規模な反乱が起きた。
 - 幕府に対して借金帳消しを求め、徳政一揆へと発展し、全国的な徳政令の発令を勝ち取った。
 - 有力な国人たちが集まって合議制を敷き、守護大名の立ち入りを8年間にわたって禁じた。
 - 門徒たちが独自の政治体制を築き、「百姓の持ちたる国」と呼ばれるような自治を実現した。
- 問3 16世紀半ばに種子島へ伝来した鉄砲は、その後の日本の戦い方を大きく変えることとなりました。鉄砲の普及が戦国時代の社会や軍事面に与えた影響として、最も適切な説明はどれですか。 (2016年 千葉県公立入試 類似)
- 騎馬武者の一騎打ちが重視されるようになり、個人の武勇がより重んじられた
 - 武器の威力が向上したため、平地での戦闘を避けて山城にこもる戦術が一般的になった
 - 鉄砲の製造が困難であったため、京都周辺の限られた大名だけが勢力を伸ばした
 - 足軽などの歩兵による集団戦法が主流となり、戦いの規模が拡大した
- 問4 16世紀半ばにキリスト教が日本に伝えられた当時の社会情勢や、その後の歴史的経緯について述べた文として、最も適切なものはどれか。 (2020年 沖縄県公立入試 類似)
- フランシスコ・ザビエルによる布教以降、南蛮貿易の利益を求める戦国大名の中には、キリスト教に入信するキリシタン大名が現れた。
 - 織田信長は仏教勢力との対抗を優先し、キリスト教の布教を厳しく禁じてキリスト教徒を弾圧した。
 - 豊臣秀吉は海外貿易の利益を重視し、バテレン追放令を出した後もキリスト教徒を一貫して手厚く保護し続けた。
 - 当時の日本は鎖国体制が完成しており、ヨーロッパ諸国のうちイギリス一国とのみ、長崎の出島で貿易を行っていた。
- 問5 室町幕府の支配力が弱まる中で発生した、加賀国（現在の石川県）において浄土真宗の門徒らが守護大名を倒し、その後約100年にわたって農民らによる自治を行った出来事はどれですか。 (2018年 静岡県公立入試 類似)
- 島原・天草一揆
 - 正長の土一揆
 - 加賀の一向一揆
 - 山城の国一揆
- 問6 日本の歴史における13世紀から16世紀にかけての外交や出来事について、年代の古い順（先に起きた順）に並べたものとして正しい組み合わせはどれですか。 (2023年 神奈川県公立入試 類似)
- 足利義満が勘合を用いて明と貿易を開始した。→ 北九州の博多湾などに元軍が2度にわたり襲来した。→ フランシスコ・ザビエルによってキリスト教が伝えられた。
 - 北九州の博多湾などに元軍が2度にわたり襲来した。→ フランシスコ・ザビエルによってキリスト教が伝えられた。→ 足利義満が勘合を用いて明と貿易を開始した。
 - 北九州の博多湾などに元軍が2度にわたり襲来した。→ 足利義満が勘合を用いて明と貿易を開始した。→ フランシスコ・ザビエルによってキリスト教が伝えられた。
 - フランシスコ・ザビエルによってキリスト教が伝えられた。→ 北九州の博多湾などに元軍が2度にわたり襲来した。→ 足利義満が勘合を用いて明と貿易を開始した。
- 問7 戦国大名の武田氏にゆかりのある、現在の山梨県に位置する武田神社付近には、かつて大名の館を中心とした町が形成されていました。このように大名が家臣や商工業者を集めて町を作った主な目的として、最も適切な説明はどれですか。 (2016年 千葉県公立入試 類似)
- 家臣を一定の場所に集めて統制し、商工業を振興して領国の経済と軍事を支えるため
 - 交通の要所に休憩所を設けることで、旅人の利便性を高め、通行税を徴収するため
 - 海外との貿易を独占するために、海岸線に面した土地に防衛拠点を築くため
 - 有力な寺社への参拝客を増やすことで、宗教的な権威を利用して領民を支配するため
- 問8 16世紀のヨーロッパでは、既存の教会のあり方を批判する動きから宗教改革が起こり、新教とも呼ばれるプロテスタントが誕生しました。この宗教的な対立が、当時のポルトガルやスペインといったカトリック諸国の海外進出にどのような影響を与えたか、最も適切な説明を選びなさい。 (2021年 愛知県公立入試 類似)
- カトリックとプロテスタントの両勢力が協力体制を築き、イスラム教圏を回避するための新しい航路を開拓した。
 - プロテスタントの勢力拡大に直面したカトリック側が、失った勢力を回復するために海外での布教活動を強化した。
 - プロテスタント諸国が海外進出を独占したため、カトリック諸国は布教よりも国内の防衛を優先させた。
 - 宗教改革によってキリスト教の権威が失墜したため、ヨーロッパ諸国は布教を目的とした海外進出を完全に停止した。
- 問9 応仁の乱ののち、実力で領地を広げた戦国大名が、自らの領国内を統治し、家臣や民衆を支配するために独自に制定した法律を何といいますか。 (2023年 静岡県公立入試 類似)
- 御成敗式目
 - 建武式目
 - 分国法
 - 武家諸法度
- 問10 「朝倉孝景条々」や「甲州法度次第」といった分国法の中に見られる、戦国大名による統治の具体的な特徴として正しいものを一つ選びなさい。 (2023年 福井県公立入試 類似)
- すべての土地と人民は天皇に帰属するという公地公民の原則を再確認した
 - 将軍の許可なく大名同士が婚姻を結ぶことを禁じ、参勤交代の義務を明文化した
 - キリスト教を保護し、ヨーロッパとの自由貿易を領国内の全ての商人に奨励した
 - 家柄に関わらず有能な人材を登用するルールや、許可なく城を構えることを禁止する規定を設けた
- 問11 戦国大名による領国支配の実態について述べた文として、当時の法律の内容や背景から考えて正しいものはどれか。 (2024年 奈良県公立入試 類似)
- これらの法律は、全国の戦国大名が合議によって作成した全国共通のルールであった。
 - 伊達氏の法典では、農民が年貢を納められない場合に備え、納税を免除する権利を認めた。
 - 分国法においては、武士同士の紛争はすべて室町幕府の裁判所に委ねるよう定めていた。
 - 朝倉氏の法典では、代官の配置や城郭の制限を通じて家臣の勢力拡大を抑えようとした。
- 問12 室町時代後半から戦国時代にかけて、各地で勢力を強めた戦国大名は、家臣や領民を統制し、自らの領国を独自のルールで支配しようとしていました。このように、戦国大名が領国支配のために独自に制定した法律を何といいますか。 (2021年 岡山県公立入試 類似)
- 御成敗式目
 - 十七条の憲法
 - 武家諸法度
 - 分国法